

# 成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

あだちっこらぶ ボイストレーニング部・デジタルミュージック部

所在地	東京都足立区	設立年	2021年
運営主体	みらい創造堂 代表企業 ヤオキン商事株式会社		
事業目標	ギャラクシティを拠点に子どもたちが文化芸術活動に触れる機会を提供することで、自己肯定感を育む新たな受け皿を創設する。		
きっかけ	足立区文化芸術推進計画の施策に「子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する」があり、小学校のクラブ活動とは異なる文化芸術活動に触れる機会の提供を必要としたため。		
団体・組織等の連携	<p style="color: red;">教育機関、地域、その他組織等の連携について(事業計画書に記載したイメージ図等)</p>		
活動場所	ギャラクシティ		
活動概要	足立区の子どもの文化芸術活動の機会提供を目的として、学校のクラブ活動とは異なる小学生対象のクラブ活動をギャラクシティが企画・運営している。		

## ○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

### ●アンケート

#### 【設問について】

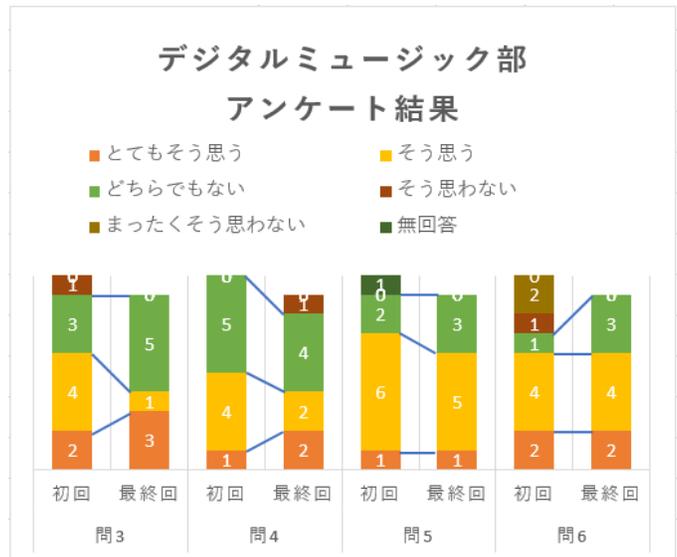
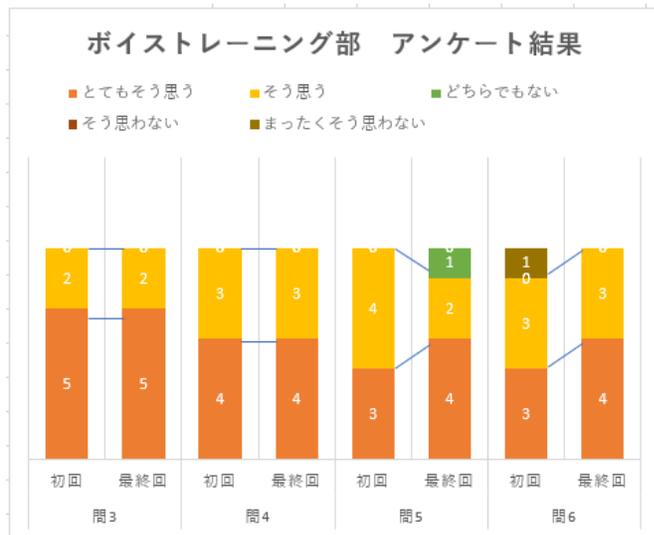
学校の音楽の授業についての意識を問う設問から、本事業の実施成果を読み取る。問3「学校の音楽の授業は楽しいですか?」、問4「あなたにとって音楽の授業は大切ですか?」、問5「音楽の授業で学んだことは普段の生活の中で役に立つと思いますか?」、問6「音楽に自信がありますか?」を設定した。

#### 【ボイストレーニング部】

問3・4の設問は同じ結果となった。問5は、初回より最終回にて「どちらでもない」という下位の回答が1件増えた。問6はボトム2の回答が無くなり、トップ2に回答が集まった。初回の回答から、元々音楽に自信を持つ子どもも多かったことが伺える。

#### 【デジタルミュージック部】

最終回のほうが有効回答が1少ない(参加者欠席のため)。全体として「どちらでもない」の回答が多かった。ただし、問6「音楽に自信がありますか」のトップ2が初回に比べて7%増加し、ボトム2が30%から0%に減少し、自信がないという意識からの変化があった可能性が伺える。



## ○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

- ・高い専門性を有する東京芸術大学卒業生を講師として招いた。
- ・足立区地域に関連して、プロのシンガーソングライターであり作詞家としても活躍している足立区出身の講師を招いた。
- ・デジタルミュージック部では自分の声を素材に使った作品作りや、作品の発表を行った。自分の作品、自身の声の魅力を発見し受け入れ、また、他の人にも受け入れてもらう機会とし、自己肯定感を育む機会とすることを狙った。
- ・ボイストレーニング部でも都度教室内での発表を行い、人前で発声することや、歌う経験を経て、達成感や自信をもってもらえる機会とすることを狙った。
- ・授業内では、受講者それぞれの様子を見ながら、講師やサポートスタッフが個別に声掛け・指導・補助を行うなどの柔軟な対応に留意した。

## ○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・「足立区新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」及び「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」(全日本合唱連盟)に則って、ビニールパーテーションやアルコール消毒液の対策用品設置など、適切な対策を検討し取り組んだ。
- ・サポートスタッフが参加者募集、申込み受付、オリエンテーションの計画進行、保護者説明や問合せ対応を行い、区・講師・参加者と連絡を取りながら円滑な事業運営に努めた。
- ・使用した用具の、iPad・作曲に用いるフリーソフトの管理、動作確認やアップデート対応、データ管理等のメンテナンスを行い、継続的な活動を支援した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

- ・講師となる人材として、東京藝術大学の卒業生を確保するため、区より人選や連絡の協力を得た。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での事業実施の判断が困難になる状況があった。
- ・コロナ禍において、歌唱を行う内容は感染対策に細心の注意を払う必要があり、サポートスタッフの事前準備の負荷が大きかった。開催毎のビニールパーテーションなどの感染対策用品の設営・片づけも負荷となった。
- ・コロナ対策の定員抑制のため、事前申込制をとった。ただ、時勢柄もあるのか、無料講座でもあるためか、出席率があまり安定しなかった。オンライン開催に一時切り替えた際には「オンラインならば、今回はお休みにする」ということもあった。
- ・用具として用いるiPadの動作確認、データ保管に関しては回線との通信状況により想定外に時間がかかる場合や、予期せぬ動作が発生する状況があった。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

**【ここをしっかりと記載していただきますようお願いします。】**

- ・コロナ禍でも実施可能な実施内容とすべく、本年の得た知見をもとにコーディネーターと講師とサポートスタッフで協議をしながらプログラムを組み立てる。また予め非対面での事業実施を想定するか否か、具体策や方針を立て、参加者や保護者への周知も含めて実施する。
- ・ボイストレーニング部の事業実施に関しては、十分な広さのある会場の確保が必須。コロナ禍の実施は会場確保の観点からも他事業への移行を検討したい。
- ・用具管理についてはヒヤリハットや発生事例を共有し次回以降の対策とする。ポケットWi-Fiの追加準備などを行った例もあったため、改善や予防できる点は早急に着手する。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

募集方法	チラシ配布、ギャラクシティホームページでの告知
指導者	東京藝術大学卒業生、足立区で活躍する講師
移動手段	—
活動費用	講師謝礼：12,000-15,000円／回 その他：感染対策消耗品費
スケジュール	実施：各部とも隔週水曜日・月2回
保険加入等	あり(運営主体で加入している傷害保険で対応)

※文化庁ホームページ：地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

([https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/92801101\\_09.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf))

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】

